

## 令和3年度事業計画

公益社団法人びわこビジターズビューロー

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、滋賀県観光入込客数も宿泊数も大きな落ち込みとなった。全国規模で観光消費は大幅な減少となり、本県の観光物産関連産業においても深刻な被害が出ており、依然として極めて厳しい状況のままである。この状況は令和3年度においてもたちまち払拭されるとは考えにくい。

公益社団法人びわこビジターズビューロー(以下「ビューロー」という。)としては、コロナと付き合いながらの観光振興を基本としつつ、アフターコロナを意識しながら、ビューロー会員をはじめ、県内の観光・物産事業者への引き続きの支援・連携強化により、『新しい時代に合った観光・物産振興』と『観光事業者の支援継続』を両輪として、滋賀県と歩調を合わせて取り組みを推進する。

コロナ禍により、旅行者のニーズが多種・多様化しつつある状況においては、豊かな観光資源を有し、大都市に非常に近い立地でありながら「適度な疎」が存在する滋賀県の強みを活かした安全安心な新しい旅のスタイルの展開が必要となる。そのため、コロナ禍を経てあらためて注目されている本県の今ある観光素材を再発見・再評価するとともに、滋賀県ならではの本物に触れられる、テーマ性の強い体験型・交流型の旅行など、今までにない「滋賀らしいニューツーリズム」を創出し、滋賀県の良さや魅力を発信していくことで新しい時代に選ばれる滋賀の実現を目指す。

また、非常に厳しい状況にある観光関連産業を支援するため、引き続き、旅行や物産の需要喚起等を行い観光事業者を下支えする。

ビューローは令和3年3月末で観光地域づくり法人(地域連携DMO)に認定されて3年が経過した。観光需要の回復や観光による地域経済の活性化に向けての舵取り役として、多様な関係者が連携して、各地域の観光資源を磨き上げることを支援していく以外にも、観光人材育成やビッグデータ活用による観光マーケティング、旅行業を活かした地域観光支援など、DMOとして求められる役割を発揮していく。

こうした状況に鑑みた上で、令和3年度は以下のテーマおよび内容での事業を推進する。

また、滋賀県観光交流振興指針「『健康しが』ツーリズムビジョン2022」改定の1年前倒しに合わせて、ビューローの2022年までの中期計画についても改定を1年前倒しすべく準備を始める。

### 重点テーマ1

#### 「滋賀らしさを活かした観光素材のブラッシュアップ」

県内の観光プロモーションについては、戦国時代を軸に万葉・平安期と幕末維新期の観光コンテンツを地域別・時代別に分けてPRを実施することにより、県内の周遊を促進し、地域のプログラム・史跡など歴史に関わる観光スポットへの誘客強化を図る。また本県の雄大な自然と大都市に隣接する優位性を活かして、地域活動等と連携するワーケーションプランを造成し、企業等への誘致を行うことで、滋賀らしいワーケーションの普及に取り組む。

物産振興においては、首都圏、近畿圏での大型物産展に引き続き、昨年度中止となった中京圏で初開催するほか、利用客が多く安定した販売が見込まれるＪＲ京都伊勢丹において新しい催事を行う。また、県内においては、一昨年度から取り組んでいる常設物産展をさらに進化させ、県産品のＰＲと地産地消による情報発信を図る。

また、昨年度にホームページ内に構築したＯＴＡを活用した販売システムを通して、宿泊以外にもアクティビティやグルメ、イベントの購買を促進することで誘客を図る。

## 重点テーマ2

### 「受入環境の整備による「滋賀のおもてなし」」

コロナ禍を経て変化する観光客のニーズに対応するため、安全安心を最優先しつつ、滋賀の魅力・優位性を活かして、滋賀をゆっくり、長く味わってもらえるよう、各種受入環境の整備を推進する。

このため、各市町や観光協会、民間事業者等の実施する観光資源の発掘や観光ルートの設定、二次交通アクセスの整備等の地域観光活性化の取り組みに助成する。

教育旅行においては、「三密」を避けることができ、豊富な観光資源と様々な学習素材が存在する「滋賀ならではの」の特性を最大限に活かして誘致活動を展開する。特に東北３県（宮城・福島・岩手）に対しては、教育旅行関係者との相互交流を実施する。またＪＲ米原駅を利用し、なおかつ県内の宿泊や観光地利用を含む教育旅行に対して助成を行う。

コンベンション誘致においては、県内での国際会議・全国大会の開催を支援するため、主催者に一定金額を助成する。また、大津市・草津市との連携を強化し、オンライン開催など、ニューノーマルに対応した新たな誘致・開催支援を行っていく。

訪日外国人観光客へ向けには、アフターコロナを見据えて、重点市場である台湾および香港に対して、訴求力の高い媒体を通じて、本県の観光情報ならびに特典についてＰＲし、誘客を図る。

## 重点テーマ3

### 「情報発信の強化による認知度向上」

まずは滋賀が安全安心な旅行先であることの周知に努める。当面は日本人国内旅行の需要喚起が重要になることを意識し、滋賀の良さや魅力を発信していく。

また、コロナ禍における滋賀の新たな旅のスタイルを「シガリズム」とし、映像やパンフレット等を活用して広く発信し、さらなる誘客を図る。雑誌やパンフレットといった紙媒体での露出に加え、リニューアルした「滋賀県観光・物産情報ウェブサイト」により生きた情報を分かりやすく手元に届けるよう努めるとともに、各種ＳＮＳを有効に活用した情報発信も行う。

積極的な旅行商品造成の促進を図るため、主要都市圏での旅行会社向けの商談会の開催を継続するとともに、滋賀県内での現地研修会も実施する。また、教育旅行誘致キャラバンの実施やコンベンションセールスの実施を継続し、さらなる誘致件数増加を目指す。

海外誘客においては、訪日外国人が激減する状況の中、有力メディアやインフルエンサーの招請やYouTubeの活用など、民間の発信力を活用した滋賀の魅力の発信に注力する。また、中国湖南省「滋賀県誘客経済促進センター」を拠点として、周辺地域に対しての観光プロモーションを実施する。新規事業として「台湾スノーアクティビティＰＲ事業」、「琵琶湖における水上飛行機運用に係る商業性

ならびに実用性調査」を実施し、インバウンド向けの新たな観光素材の発掘・磨き上げを進める。

#### **重点テーマ4**

##### **「持続可能な観光・物産振興の体制構築」**

滋賀県全域を対象とする観光地域づくり法人（地域連携DMO）として、会員をはじめ県内市町・観光協会等の多様な関係者と協働しながら、観光地域づくり等の基盤整備に努める。

その一環として、県内各市町観光協会等の職員等に向けて、戦略的な観光事業を展開・牽引できる人材を育成すべく、実践型の研修プログラムを実施する。またマーケティング分析に基づいた各市町の実情に合わせた戦略的な施策の策定を支援していく。

また、本県を訪れる観光客の周遊実態を関係者間で見える化し、データを活用した戦略的かつ効果的な観光客の受入環境整備や情報発信、周遊ルートの検討など、更なる周遊促進に向けた観光施策を構築することを目的とした「滋賀の観光見える化・データ活用事業」を継続して実施し、観光消費額の拡大や県内経済の活性化させることで、地域と連携した組織基盤の強化に取り組む。

県内唯一の新幹線発着駅であるJR米原駅を活用し、観光情報を効果的に発信するとともに、県東北部への新たな人の流れをつくる広域観光を促進するため、関係自治体等の取り組みを支援し、米原駅を起点とした観光周遊機能の強化を図る。

##### **新型コロナウイルス感染症対策支援事業**

次の4事業を継続して実施する。

- ・「今こそ滋賀を旅しよう！」宿泊周遊キャンペーン事業
- ・教育旅行誘致事業「ウエルカム滋賀・びわ湖」
- ・安全安心な観光バスツアー補助事業
- ・物産販売・販路拡大支援事業

# 収 支 予 算 書

自 令和 3 年 4 月 1 日  
至 令和 4 年 3 月 31 日

(単位 千円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較	備 考
<b>I 一般正味財産増減の部</b>				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取会費	7,800	7,800	0	
事業収益	100,490	105,432	△ 4,942	
受取補助金等	1,059,705	304,903	754,802	
受取受託金	15,638	13,300	2,338	
雑収益	525	525	0	
経常収益計	1,184,158	431,960	752,198	
(2) 経常費用				
事業費	1,162,677	411,761	750,916	
管理費	22,162	22,116	46	
経常費用計	1,184,839	433,877	750,962	
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 681	△ 1,917	1,236	
当期経常増減額	△ 681	△ 1,917	1,236	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	-	-	-	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	-	-	-	
当期経常外増減額	-	-	-	
指定正味財産への振替額	-	-	-	
他会計振替額	-	-	-	
当期一般正味財産増減額	△ 681	△ 1,917	1,236	
一般正味財産期首残高	△ 5,215	7,304	△ 12,519	
一般正味財産期末残高	△ 5,896	5,387	△ 11,283	
<b>II 指定正味財産増減の部</b>				
受取補助金等	-	-	-	
一般正味財産からの振替額	-	-	-	
一般正味財産への振替額	-	-	-	
当期指定正味財産増減額	-	-	-	
指定正味財産期首残高	77,130	77,130	0	
指定正味財産期末残高	77,130	77,130	0	
<b>III 正味財産期末残高</b>	71,234	82,517	△ 11,283	

# 収 支 予 算 内 訳 表

自 令和 3 年 4 月 1 日  
至 令和 4 年 3 月 31 日

(単位 千円)

科 目	公益目的 事業会計	収益事業 等会計	法人会計	内 部 取 引 消 去	合 計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
受取会費	3,900	0	3,900	-	7,800
事業収益	76,732	17,761	5,997	-	100,490
受取補助金等	1,034,199	13,772	11,734	-	1,059,705
受取受託金	15,638	0	0	-	15,638
雑収益	120	0	405	-	525
経常収益計	1,130,589	31,533	22,036	-	1,184,158
(2) 経常費用					
事業費	1,133,556	29,121	0	-	1,162,677
管理費	0	0	22,162	-	22,162
経常費用計	1,133,556	29,121	22,162	-	1,184,839
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 2,967	2,412	△ 126	-	△ 681
当期経常増減額	△ 2,967	2,412	△ 126	-	△ 681
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	-	-	-	-	-
(2) 経常外費用					
経常外費用計	-	-	-	-	-
当期経常外増減額	-	-	-	-	-
指定正味財産への振替額	-	-	-	-	-
他会計振替額	958	△ 958	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 2,009	1,454	△ 126	0	△ 681
一般正味財産期首残高	△ 21,653	20,975	△ 4,537	0	△ 5,215
一般正味財産期末残高	△ 23,662	22,429	△ 4,663	0	△ 5,896
<b>II 指定正味財産増減の部</b>					0
受取補助金等	-	-	-	-	-
一般正味財産からの振替額	-	-	-	-	-
一般正味財産への振替額	-	-	-	-	-
当期指定正味財産増減額	-	-	-	-	-
指定正味財産期首残高	77,130	-	-	-	77,130
指定正味財産期末残高	77,130	-	-	-	77,130
<b>III 正味財産期末残高</b>	53,468	22,429	△ 4,663	-	71,234

# 資金調達および設備投資の見込みについて

自 令和 3 年 4 月 1 日

至 令和 4 年 3 月 31 日

## 1 資金調達の見込みについて

なし

## 2 設備投資の見込みについて

なし

## 令和2年度事業報告

公益社団法人びわこビジターズビューロー

令和2年度は公益社団法人びわこビジターズビューロー第2期中期計画の2年目に当たる年であり、滋賀県で策定した観光交流振興指針『健康しが』ツーリズムビジョン2022』も踏まえ、様々な事業を広域的に展開し、国内外からの滋賀への観光誘客を積極的に推進する予定であった。

しかしながら、昨年度末から全国に拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、大阪府や京都府、愛知県など滋賀への観光客の大半を占める近隣府県に緊急事態宣言が発出されるなど、年度の大半にわたり「人」の往来が大幅に制限されることとなった。そのため、観光客の減少も非常に大きく、「滋賀県観光入込客統計調査」令和2年速報値によると、滋賀県の観光入込客数は過去最高を記録した令和元年に比べ32.6%減少し、約36,430,000人となり、いくつかの観光関連施設についても、感染拡大防止の観点などから営業を休止せざるを得ない状況になるなど、滋賀県全体の観光産業が未曾有の危機に直面した。

その様な状況下において、当法人や滋賀県の観光関連事業についても、当初計画されていたものの多くが中止や内容の縮小を余儀なくされ、県外に向けての積極的な観光推進活動を実施できない状況となった。刻一刻と変化する状況に対応するため、数度の計画の見直しと予算の補正を行い、国や県の補助を受けることで、危機に直面した観光関連事業者を支援する事業などを多角的に展開することとなった。

### 重点テーマ1

#### 「滋賀らしさを活かした観光素材のブラッシュアップ」

滋賀ゆかりの戦国武将“明智光秀”が主人公となるNHK大河ドラマ「麒麟がくる」が放映中であった機会に合わせ、戦国をテーマとした滋賀県観光キャンペーン「戦国ワンダーランド滋賀・びわ湖」を昨年度から引き続き実施した。

県内全域を対象として、多様な主体が一丸となって、県内の戦国にまつわる史跡などの歴史資源や、滋賀ゆかりの戦国武将の人的魅力に焦点をあてた観光素材のブラッシュアップに取り組むとともに、「近江の戦国」に関する認知度を向上させることで、新型コロナウイルス感染症収束後の更なる滋賀への観光誘客を実現すべく、各種事業を展開した。

また、ウェブやSNS、パンフレット、ポスターなどによる広報媒体のほか、情報誌などの民間媒体、交通系媒体、パブリシティ、観光展などを幅広く活用し、ターゲットを意識した効果的かつ広域的な広報・PR活動を積極的に展開したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、イベント情報の発信を控え、密にならないコンテンツや史跡等を中心に告知を行った。

物産振興事業では昨年度に引き続き、関西有数の商業施設である「あべのハルカス近鉄本店」において、観光キャンペーンと連動させた「味と匠の祭典 第2回滋賀・びわ湖展～戦国ワンダーランド～」を開催した。

県内物産品の地産地消の促進に向けては、各市町の観光物産協会と協働して、近鉄百貨店草津店において、継続して物販コーナー「近江路」を運営し、月替わりで各市町の特産品の販売を行った。同時に、物産販売だけでなく、各市町の観光案内等も実施した。

加えて、コロナ禍を経て従来の観光スタイルが変化することを想定し、安全安心を前提に

した時代に即した滋賀の「新しい観光スタイル」を「滋賀らしいニューツーリズム」として発信していくために、プロモーションテーマを『シガリズム』として、パンフレット・動画・ウェブサイトなどで展開した。

## **重点テーマ2**

### **「受入環境の整備による「滋賀のおもてなし」**

宿泊・滞在型観光を増やし、来訪者の再訪意欲を高めていくために、コロナ禍における安心安全を担保した「おもてなし」の視点から受入環境の整備を図った。

宿泊・滞在型観光の促進に向けて、地域観光活性化支援事業として、各市町、観光協会、広域観光振興協議会等が実施する地域観光活性化に繋がる観光プログラムやPR・プロモーション事業などに補助金を交付した。

誘致支援の充実に向けては、県内周遊型教育旅行の造成に対して補助金を交付する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により対象の教育旅行等がすべて中止となったほか、県内でのコンベンションへの助成金の交付についても対象の大会がすべて中止となった。その中でMICE 担当者の現地研修会については、感染防止対策を徹底した上で開催することが出来た。

また、コンベンション誘致事業として、平成30年度から誘致に取り組み、令和2年5月に大津市を中心に開催が予定されていた「第63回日本糖尿病学会年次学術集会」についても開催は中止となったが、代替開催となったウェブでの大会上で特別に時間を設けていただき、滋賀での観光やコンベンションをPRすることが出来た。

訪日外国人観光客に対しては、訪日自体が難しい現状を踏まえ、新型コロナウイルス感染症収束後の更なる誘客拡大を目指し、来県者の満足度向上を目的とした「通訳案内士研修」を開催し、県内宿泊施設、観光事業者等の受入環境整備の促進を図った。

## **重点テーマ3**

### **「情報発信の強化による認知度向上」**

滋賀県観光情報誌「滋賀たび」や雑誌、パンフレットなどの紙媒体だけでなく、県内全域の観光物産情報を集約し、一元化してウェブで効果的・効率的に旬の情報を発信した。ウェブサイトの運営については、滋賀県観光情報ウェブサイト的大幅なりリニューアルを実施し、全アクセスのおよそ7割を占めるモバイル端末からの閲覧に最適化するとともに、主にSEO対策の向上につながる改修を行い、アクセス増に努めた。

国内においては、マスコミや旅行会社、教育旅行関係、コンベンション関係などに、コロナ禍に対応した、安全安心などをテーマとした観光物産情報を的確に提供できるように努めた。特に観光キャンペーン「戦国ワンダーランド滋賀・びわ湖」の情報発信としては、市町・観光協会・事業者等と連携し、旅行会社向けの現地研修会や商談会を通じて旅行商品造成に向けた提案を行うなど、現状に応じた誘客促進に取り組んだ。

教育旅行誘致事業では、誘致キャラバンを東北・東海地区に向けて計2回実施した。特に、東北地方においては現地の滋賀県人会にも情報収集や送客協力を要請した。

海外向けのプロモーションとしては、昨年度京都市の関西ツーリストインフォメーションセンター内に開設した、旅ナカでの観光案内、情報発信を目的とした観光案内所「そしが」を新型コロナウイルス感染症の拡大により一時停止したが、ウェブを活用した観光素材や旅



行記事広告、体験記などを掲載したほか、影響力の大きいメディアの招聘などにも積極的に取り組んだ。

また新たな試みとして、動画投稿サイト YouTube に専用チャンネルを開設し、手作りの観光PR動画を投稿することで認知度向上や誘客促進に努めた。

中国湖南省に昨年度に開設した「滋賀県誘客経済促進センター」では、中国における滋賀観光のプロモーションなどに取り組んだ。

#### **重点テーマ4**

##### **「持続可能な観光・物産振興の体制構築」**

持続可能な観光・物産振興の体制構築を行うため、各地域で観光事業を展開・牽引できる人材の育成を目的として、昨年度から3年計画で開始した「観光人材育成等地域支援事業」の2年目を実施した。今年度は、「しが観光人材育成アカデミー」を計5回開催し、昨年度に比してより実践的な内容とするため、実際に地域観光実務に携わる方を講師に招き、滋賀の観光地のフィールドワークなども実施した。併せて、受講者に加え一般の方々も対象とした「県域研修会」を2回開催することで事業の周知にも努めた。

また、本県を周遊する県内外の観光客の属性、宿泊状況、周遊状況等を調査・分析することで、観光客の周遊実態を関係者で共有し、データを活用した戦略的かつ効果的な観光客の受入環境整備や情報発信、周遊ルートの検討など、更なる周遊施策を構築や改善を目的とした「滋賀の観光見える化・データ活用事業」を今年度より実施し、市町、観光協会、さらには事業者に向けて2回に分けて報告会を開催した。

会員とビューロー、会員相互の連携強化に向けては、実施事業の事前周知、実施報告や情報提供のために「会員通信メール」を随時配信したほか、「地域懇談会」を彦根市、草津市、高島市で開催し、会員の現状を把握するために意見交換を行った。

##### **新型コロナウイルス感染症対策支援事業**

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、大きなダメージを受けた観光関連産業を支援するため、国や県の補助を受けて各種事業を実施した。

旅の土産も思い出に事業、観光閑散期稼働率向上等推進事業では、新型コロナウイルス感染症拡大により利用者が大きく落ち込んだ宿泊施設や関連物産施設の利用を促進するため、宿泊割引と物産施設で利用できるクーポンがセットになったプラン「今こそ滋賀を旅しよう!」を販売した。

物産販売・販路拡大支援事業で、主として物産関連事業者への支援を目的として、大手ECモール「Yahoo!ショッピング」と連携し、滋賀の特産品が最大30%割引で購入できる「滋賀県ご当地モール」を2期に分けて実施した。

滋賀県「安全安心な観光バスツアー」助成事業では滋賀県内に事業所等を有する旅行事業者に対して、貸し切りバス代金の一部助成およびツアー参加人数に応じた助成を行った。

「ウェルカム滋賀・びわ湖」教育旅行キャンペーン事業では、教育旅行を対象にして、一定の条件を設け、生徒人数に対する補助や思い出の品をプレゼントする事業を行った。

ビューローでは、これらの事業を通して、新型コロナウイルス感染症によりダメージを受けた観光関連事業者に対し、滋賀県と連携し、積極的かつ迅速な支援に努めた。

# 貸借対照表

令和3年3月31日 現在

(単位 円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産			
現金預金	220,682,301	122,129,592	98,552,709
未収入金	27,780,588	13,852,826	13,927,762
立替金	334,079	-	334,079
前払金	692,444	679,349	13,095
流動資産合計	249,489,412	136,661,767	112,827,645
2 固定資産			
(1) 特定資産			
退職給付引当資産	2,938,752	24,761,708	△ 21,822,956
観光開発積立金運用資産	77,130,000	77,130,000	-
物産振興事業会計資産	8,762,725	8,762,725	-
特定資産合計	88,831,477	110,654,433	△ 21,822,956
(2) その他固定資産			
差入保証金	2,822,700	2,822,700	-
その他固定資産合計	2,822,700	2,822,700	-
固定資産合計	91,654,177	113,477,133	△ 21,822,956
資産合計	341,143,589	250,138,900	91,004,689
<b>II 負債の部</b>			
1 流動負債			
未払金	234,064,119	127,166,810	106,897,309
未払法人税等	72,200	72,200	-
未払消費税等	595,100	461,000	134,100
前受金	509,820	1,021,380	△ 511,560
預り金	1,132,624	1,644,536	△ 511,912
賞与引当金	6,698,472	6,793,676	△ 95,204
流動負債合計	243,072,335	137,159,602	105,912,733
2 固定負債			
退職給付引当金	21,007,041	41,064,123	△ 20,057,082
固定負債合計	21,007,041	41,064,123	△ 20,057,082
負債合計	264,079,376	178,223,725	85,855,651
<b>III 正味財産の部</b>			
1 指定正味財産			
指定正味財産合計	77,130,000	77,130,000	-
(うち特定資産への充当額)	(△ 77,130,000)	(△ 77,130,000)	(-)
2 一般正味財産			
一般正味財産合計	△ 65,787	△ 5,214,825	5,149,038
(うち特定資産への充当額)	(△ 8,762,725)	(△ 8,762,725)	(-)
正味財産合計	77,064,213	71,915,175	5,149,038
負債及び正味財産合計	341,143,589	250,138,900	91,004,689

# 正味財産増減計算書

自 令和 2 年 4 月 1 日  
至 令和 3 年 3 月 31 日

(単位 円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	7,900,000	7,770,000	130,000
事業収益	94,272,149	102,396,525	△ 8,124,376
受取補助金等	1,129,194,785	236,570,778	892,624,007
受取受託金	7,560,936	8,480,400	△ 919,464
雑収益	849,343	419,547	429,796
経常収益計	1,239,777,213	355,637,250	884,139,963
(2) 経常費用			
事業費	1,217,776,271	347,947,440	869,828,831
管理費	16,779,704	20,162,151	△ 3,382,447
経常費用計	1,234,555,975	368,109,591	866,446,384
評価損益等調整前当期経常増減額	5,221,238	△ 12,472,341	17,693,579
評価損益等計	-	-	-
当期経常増減額	5,221,238	△ 12,472,341	17,693,579
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	-	25,400	△ 25,400
(2) 経常外費用			
経常外費用計	-	-	-
当期経常外増減額	-	25,400	△ 25,400
税引前当期一般正味財産増減額	5,221,238	△ 12,446,941	17,668,179
法人税、住民税及び事業税	72,200	72,200	-
当期一般正味財産増減額	5,149,038	△ 12,519,141	17,668,179
一般正味財産期首残高	△ 5,214,825	7,304,316	△ 12,519,141
一般正味財産期末残高	△ 65,787	△ 5,214,825	5,149,038
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
特定資産運用益	126,541	126,775	△ 234
一般正味財産への振替額	△ 126,541	△ 126,775	234
当期指定正味財産増減額	-	-	-
指定正味財産期首残高	77,130,000	77,130,000	-
指定正味財産期末残高	77,130,000	77,130,000	-
<b>III 正味財産期末残高</b>	77,064,213	71,915,175	5,149,038

# 正味財産増減計算書内訳表

自 令和 2 年 4 月 1 日  
至 令和 3 年 3 月 31 日

(単位 円)

科 目	公益目的 事業会計	収益事業 等 会 計	法人会計	内部取 引消去	合 計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>					
1 経常増減の部					
(1) 経常収益					
受取会費	3,601,102	-	4,298,898	-	7,900,000
事業収益	75,560,830	16,852,455	1,858,864		94,272,149
受取補助金等	1,105,291,781	13,431,212	10,471,792	-	1,129,194,785
受取受託金	7,560,936	-	-	-	7,560,936
雑収益	271,280	550	577,513	-	849,343
経常収益計	1,192,285,929	30,284,217	17,207,067	-	1,239,777,213
(2) 経常費用					
事業費	1,192,285,929	25,490,342	-	-	1,217,776,271
管理費	-	-	16,779,704	-	16,779,704
経常費用計	1,192,285,929	25,490,342	16,779,704	-	1,234,555,975
評価損益等調整前当期経常増減額	-	4,793,875	427,363	-	5,221,238
評価損益等計	-	-	-	-	-
当期経常増減額	-	4,793,875	427,363	-	5,221,238
2 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	-	-	-	-	-
(2) 経常外費用					
経常外費用計	-	-	-	-	-
当期経常外増減額	-	-	-	-	-
指定正味財産への振替額	-	-	-	-	-
他会計振替額	2,254,889	△ 2,254,889	-	-	-
税引前当期一般正味財産増減額	2,254,889	2,538,986	427,363	-	5,221,238
法人税、住民税及び事業税	-	-	72,200	-	72,200
当期一般正味財産増減額	2,254,889	2,538,986	355,163	-	5,149,038
一般正味財産期首残高	△ 21,653,072	20,974,979	△ 4,536,732	-	△ 5,214,825
一般正味財産期末残高	△ 19,398,183	23,513,965	△ 4,181,569	-	△ 65,787
<b>II 指定正味財産増減の部</b>					
特定資産運用益	126,541	-	-	-	126,541
一般正味財産への振替額	△ 126,541	-	-	-	△ 126,541
当期指定正味財産増減額	-	-	-	-	-
指定正味財産期首残高	77,130,000	-	-	-	77,130,000
指定正味財産期末残高	77,130,000	-	-	-	77,130,000
<b>III 正味財産期末残高</b>	57,731,817	23,513,965	△ 4,181,569	-	77,064,213